

社会デザイン研究室の理念とテーマ

羽鳥 剛史 准教授
社会デザイン研究室



はじめまして。社会デザイン研究室の羽鳥剛史です。私はこの四月に愛媛大学に参りました。社会デザイン研究室は今年度から出来たばかりの新しい研究室です。今回は、社会デザイン研究室の理念とテーマについて簡単に紹介させて頂きたいと思っております。

私の研究室は「社会」を対象としています。どのような社会が良いのかを考えて、そこからあるべき社会の実現に向けて、国土・地域政策のあり方を提案する——極めて大雑把に言えば、それが当研究室の基本的な使命であると考えています。

「あるべき社会」とはどのようなものなのでしょうか。まず、2つの仮想的な社会を考えてみましょう。「社会A」では、住民の協力により街路はいつもきれいに掃除されています。住民同士の交流が活発で、お祭りやボランティア活動等、地域のイベントが積極的に行われています。また、行政は住民から信頼されており、道路や橋等の土木施設が適切に整備されています。



一方、「社会B」では、街路はいつもゴミや放置駐輪であふれています。住民同士の交流はなく、地域のイベントも行われません。また、行政は住民から信頼されていません。その結果、土木事業は常に反対され続けます。

さて、皆さんなら「社会A」と「社会B」のどちらが良いと考えるのでしょうか？ 大方の人は、恐らくは「社会A」が良いと思われるのではないのでしょうか。しかし、現実には、「社会B」に見られるような諸問題は、日常的に見られる現象です。さらに言うと、そもそも「社会B」の方が良いと思われる方もおられるかもしれません。人々の価値観が多様化する現代社会では、「良い社会とは何か」について人々の間で意見が異なることは決して珍しくありません。

私の研究室では、（「社会B」のような）様々な社会問題はなぜ起こるのかを考えて、私たちの社会が（「社会A」のような）良い社会に少しでも近づくべく、一つ一つの社会問題の解消に貢献し得る研究に取り組みたいと思っております。また、「良い社会」のあり方を巡って、地域住民、行政、企業、専門家等、様々な立場の人々の間で意見が対立する時、どのような話し合いを持ち、可能な限り合意を形成しながら、いかにして社会的な意思決定を適切に行うかという問題について検討します。例えば、以下のような研究テーマに取り組みます。

- ・人々の道德意識と協力行動の活性化に関する研究
- ・地域住民によるまちづくり実践に関する研究
- ・行政と住民間の信頼形成に関する研究
- ・公共プロジェクトに関わる話し合いと合意形成問題に関する研究



図 話し合いの心理実験の様子

研究のアプローチは、土木計画学、社会心理学、経済学、政治哲学等、社会科学全般を対象とします。興味を持たれた方は、是非気軽に研究室を訪ねてください。

より良い社会のあるべき姿を考え、その実現に向けて取り組むこと——考えて見ると、極めて難しい問題であります。しかし、土木工学とはそもそも「良い社会」の実現に貢献することをその使命としています。そうである以上、この問題を避けて通ることは出来ないと思っております。社会デザイン研究室は、この途方も無い問題に対して、一人一人の意識や行動から社会全体の仕組みまでを対象にして、何らかの方途を見出すことを目指します。

(2011年5月)